

## 平成23年度第2回町民フォーラム

開催日	平成23年10月28日（金） 開会午後6時～			
出席者	町民フォーラム参加者37名			
事務局	企画 G 参事	鳴海 清春	企画 G 総括主査	住吉 英之
	企画 G 主事	中塚 雅史	ぎょうせい創研	廣地主任研究員

（開会午後6時）

### ○事務局

それでは、定刻になりましたので、第2回目のまちづくり町民フォーラムの方を開催したいと思います。開催に先立ちまして、企画グループの鳴海参事の方からご挨拶をお願いします。

### ○企画 G 参事

どうも、お晩でございます。皆様にはお仕事を終えてお疲れのところ第2回目の福島町まちづくり町民フォーラムにご出席をいただきまして、ありがとうございます。9月12日の第1回目の時は参加者の情報共有、また同じ意識を持って会議に臨むということを目指してございました。今回はこのあと、事務局の方から報告をさせますけれども、町民を対象としたアンケート調査などの状況を踏まえて色々な意見を出していただいて、今後の対策を講じて参りたいというふうに思っておりますので、よろしく協力をいただきたいと思います。なお、町からの情報提供ということなんです、町では先の会議においてもお話をさせてもらいましたけれども、町の方でまず先行して出来ることをや

ろうということで、実はこの12月の議会に対して定住及び少子化対策と農林水産業の担い手対策を、条例を作って提案することとしてございます。

その、主な内容でございますけれども1点目としては、現在小学生まで無料化となっている医療費の助成を高校生まで拡大することを考えてございます。2点目としては、出産祝い金ということでお子さんが産まれたところに助成金を出すということを考えてございます。また、3点目としては定住促進住宅ということで、新たに住宅を建てた方を支援しようという事で考えてございます。4点目としては、農林水産業に従事したいと考えている若い方へ担い手対策ということで、助成金などを考えてございます。

なお、これらの内容につきましては31日に発行されます議会だよりの方に詳しい内容が載っておりますので、そちらの方をご覧いただければと思っております。それでは、この後次第に沿いまして、うちの中塚の方からまず報告をさせますのでよろしくをお願いします。

## ○事務局

ありがとうございます。さきにやりましたアンケートの結果を含め、また前回出られていない方もいますので、復習も含めまして、こちらの方から報告という格好で入らせてもらいまして、その後、意見交換という流れになっていきます。

説明については、ぎょうせいの方からさせていただきますので、よろしくをお願いします。

## ○ぎょうせい

皆さんこんばんは。6時からでちょっと大変かもしれません。大勢お集まりいただきましてありがとうございます。今、お話がありましたように、今日からいよいよ皆様方にアイデアを考えていただくという事で、具体的な内容に入るわけでございますが、事前に前回休んで今日来られたという方はいらっしゃいますか？

前回そんな難しいことをやったわけではありません、町の様子をまず一つ報告をしていただいたんですね、それは何かというと、少子化が進んでいるよと。それから、定住人口がどんどん減ってきているよという統計を町の方からちょっとお話いただきました。特にその中でも出生数が著しく落ち込んできていることが一つあると、もう一つは後期総合計画の中で定住促進というのが一つの大きな取り組みになっているというようなこと。それからもう一つは、住民の方と行政との協働、一緒に町を作っていくということが課題になっているという説明

がありました。

もう一つ、ここの確認というところの2番のところで、フォーラムの目指すものとスケジュールの予定確認というのが、中身はお手元に資料が送られていたと思いますからそれを見ていただければいいんですが、やはりこれから一番重要なことは町の方からご説明がありましたけど、自分達の住んでいる町を自分たちの手で良くしていくという時に、どうしても行政だけで考えていますと、なかなか思うようにいかないということで、住民の方、あるいは役場におられる方達でも若い方たちの意見が素直に活かされることが重要だと、そういうふうなことを私の方から説明をさせていただきました。

もう一つは、全国で今、日本の国自体人口減少が始まっていますし、どこに行っても過疎化なんですね。私は東京から来ていますが、東京でももう過疎が始まったところがあるんですね。それは私が住んでいた所、今はもう住んでおりませんが、若い頃住んでいた所は、多摩ニュータウンという国の実験都市と言われたところで、30万人都市を作るという事で、東京からだいたい40キロ圏なんですが、そこにニュータウンを作って人を集めようということをやったんです。これは1970年、昭和45年なんですが、その時から始めたんですが、実はもう私はその1期に入居しました。当時まだ23歳。入った時にこれはもう駄目だと実は思ったんですね。あっという

間にこういうのを作ったら、過疎化が始まるし、高齢化が始まるよと。見事にそのとおりになりまして、今やもう過疎化と高齢化でどうするんだと。団地の中が歯抜けになっている。ですから、日本全国どこへ行ってもそういう状況がある。ただし、そうはいつでもそれぞれの町の誰もがその町には愛着もありますし自分の住んで生まれ育った町がますます活性化されなきゃいけないというような事がありますので、ぜひ皆さん方に色々なアイデアを出していただいて行政の方でも頑張っていて、多くの人が住みやすい環境をつくっていくという事が重要であるというふうな説明をさせていただきます。

もう一つは、福島商業高校の学生さんに3年生ですけれども、同じような形で高校生会議というのを開かせていただいたんです。高校生の皆さん方にもワークショップをやっていただいて、それぞれチームから報告をしていただきました。その概要も前回の資料に若干書いてございますし、その後町の広報で少し説明をさせていただきましたので、またそれもお覧いただければありがたいなと。

それから、もう一つは数字ゲームというのをやりました、1番から99番まで番号が書いてある1枚の紙を渡して、ある一定の時間から実は2分なんですけど、ランダムに番号を打ってあるのを、丸をつけてくれと単純にはそういうゲームです。それが実は2回に分けてやったんです、1回目は何も

言わずに紙を配って、用意どんと言ったら皆で丸をつけて1番から2番といくわけですね。それをやりました。そうすると、2分間でだいたい平均すると30番まで丸がつけられました。それを今度は同じものが裏にも印刷されていて、今度また同じ作業を2回やっていたいたんです。でもその時は、その数字の並び方の意味をこう並んでいるよという、回答を皆さん方に教えてやってもらいました。そうしたら、平均点が50近くまでいきました。2分間やって最初は30、次は1分40秒にしてやったら50までいった。というようなゲームをやりました。

これは何かというと、やっぱりこれから皆さん方をお願いするのは、この町の定住促進と少子化対策、町で、皆で、全員参加でこの町を良くしようという時に、一番重要なのは的確な情報を皆さん方に知っていただく。例えば数字ゲームでもそうなんですけど、私がこういうふうにやれば早いですよと言っただけで、皆さん方がわずか1分説明しただけで、最初は30番までしか付かなかったのが次は50番、それも時間をカットしてもできる。

これから、この町なんかでも重要なことは、時間との勝負なんですね、なるべく早く町に元気を出す。そのことが、まず重要なことです。その時に重要なのは、せっかく集まっている皆さん方が同じ情報を持って同じような作業、一人一人考えることは違いますけど、やり方も違いますが、まず同じ情報、情報共有してやると、これを地

域力・住民力と言うんですけれども一挙に高まるんですね。そういうことで数字ゲームをやりました。それは、今申し上げたように何かを知ること、自分が知っている事は隣の人に教えてあげる、隣の人を知っていることは自分が聞く、こういう事で情報共有すると、一般に言う住民力、地域力というのが向上するんですね。ですから数字ゲームでそういうことをやらせていただきました。

もうひとつは、事前にこのフォーラムに参加して下さいとお願いした人達にアンケート調査を実施していました。

今日来た人で質問表というのを持っている方はいらっしゃいませんか？お持ちじゃなくてもいいんですが、こういう質問表がいていたはずなんですね。その中に事前に、今日やらしてもらえばいい事なんです、お一人お一人が若者定住といった時にはどんなことをしたらいいですか、あるいは少子化対策といったらどんなことをイメージしますか。ということを書いてくださいというペーパーだったんです。そのペーパーを、自分が書いてきた事をこういう紙に書き写してくださいというお願いをしました。前回来た人はこの紙を持って来て下さいとお願いをしましたが、今日忘れてきた人、今日初めて来た人はこれがないですよ、すみませんけど、ちょっと配ってください。

これから私が皆さんの手元に配っている中でアンケートの結果が書い

てありますので、そのアンケートの自身を説明している間に前回来ないで今回来たという人はアンケートだけ20分くらい説明しますので簡単に箇条書きでなんか思いつくことを一番上、私の意見というところにまず最初に自分の名前を書いていただいてその後ろ、今ぱっと気が付いてこんな事を思うよという事を箇条書きでいいですから、20分くらいのアンケートの説明をしている間に何か書き込んでいただきたい。調査書というのをお配りしてそこに書いてあるのを書き写してもらおうということをやっていたんです。それからもう一つがチームリーダーを決めていただきました。チームリーダーと進行役（記録係）を決めていただいたということになります。これは、初めて今日来た方はチームメイト、それぞれのチームになっていますから、誰がリーダーで誰が記録係か聞いてください。いずれにしても難しい事をやるわけではなくて思いついたことを何かとりあえず書いていただくということが重要なことなので。

実は前回も言いましたけれどアンケートはこの町の中学3年生、それから福島商業の高校生、それから町民の方、それから福島会の方々にアンケート調査をしていただいたと。

今日初めて来た方は、私の意見というところに名前を書いて、そのあとに私の意見、若者定住促進について重要なこと片一方は少子化対策として重要なこと、自分はこう思うということ

を簡単で結構ですから書き入れて下さい。それを私が今から今日の資料のアンケートを説明している間に半分聞きながら、半分書きながら大変ですけども、頑張ってください。

それでは、今日の資料の2ページ目を見て下さい、アンケート調査第1次単純集計結果の抜粋と書いてあります。回収数が町民の方が116。300配っていますから回収率が38.7%。それから、中学生の方40人をお願いして、38人から回答。高校生の方は67人をお願いして、66人回答。福島会の方が100人をお願いして、46人が回答。という状況になっています。その中で町民の方の回答者の内訳というところが実は重要なこと、今回は20歳～40歳までの方という前提で若い人達を対象にやっております。ここには、パーセントだけじゃなく若干人数も書いてありますが、男性が41人、女性が71人、残念ですが性別が書いていただけなかった方が4人。年齢別では、30歳代が68人、20歳代が38人、20歳未満が4人、ここでも年齢の回答が無かった人が6人います。それを整理すると、ようするに無回答の人を外して整理したのが下の表です。単順にいきますと、女性の30歳代の方が、全体の34.5%回答しています。男性は30代が21%、これは資料には書いていませんが、およそそういうことです。20代の方は女性が20%、男性が11.2%そういう率です。女性の30歳代の方のアンケートが答えの3分の一

くらいを占めているということだけここでは理解していただきたい。次に3ページ目にいきます。

福島町に愛着を感じているかということ聞いていますが、福島町に愛着を感じている、これは下の方に円グラフがありますが、とても愛着を感じている人とどちらかといえば愛着を感じているという人は72%、7割を超える人たちがやっぱり福島町に愛着を感じる。それから、愛着を感じていないという人は、あまり愛着を感じていない、愛着を感じていないとこの両方を足しますと、28%。3割弱の人達はあんまり愛着を感じていないというふうに答えている。それでは、福島町の住み良さについてどう思っているのというふうに聞きましたら、住みよいか、住みよくないかということで、住みよいと答えた人は今の形と同じですが、住みよい、どちらでもいい。5割弱の人は住みよさについて住みよいと5割弱が答えた。住みにくいというのは5割ですね51%、ですから住みよいと考えている人と住みにくいと考えている人が半々だという町民アンケートでは結果になっています。

それでは、住みよいと答えてくれた人が今後もこの町に住んでくれるかどうかということ住み続けたいと思っておりますか、というのを聞いています。4ページです。

今の言い方が失礼しました、この福島町に住み続けたいかというふうに聞いているのは116人に聞いてい

るんですが、そしたら住みたいというふうに答えた方は5割強、全体では60人。それから住みたいと書かれた人が44%4割強です、全体では51人いましたけれども、その他の人達はここにまだ具体的には書いてありませんが、どちらかということに住みたい住みたい以前に住んでなきゃならない、そういった方たちがその他に書かれています。それから、住みたいと考える理由、住みたいと考える理由、先ほどの約5割強の人達、住みたいという人達はなぜ住みたいんですかという質問をしています。

そうすると、実は下がパーセントで書いてなくて、件数で書いてあって申し訳ないのですが、ここでは60人の人が先ほど住みたいと答えてくれました。そのうち、下に書いてある数字は（人）ですから、例えば自然環境がよいという人は、43人なんです。60人中43人、およそ7割の人は自然環境が良いと思っていると。それから、生まれ育った故郷だから住みたいという人が40人、65%。以下、町内で仕事をしているから、家族と同居しているから、福島町に住んで愛着を感じているからということで、もしアンケート表がお手元にいった人がいらっしゃれば思い浮かべていただければいいかと、選択肢は10いくつあったんですが、こういうものが上位になっているということで見ただければいいかと思えます。5位以下はいずれにしても2割台、1割台とい

う状況です。

それじゃあ、先ほど住みたいと答えた人51人いたんですが、この人たちがどういう理由でということ、住みたい理由、商店街や商業施設が充実していないから、趣味や娯楽等自由時間活動の場が充実していないから、その次に働く場がないから、などが上位なんですね。住みたいと思っていない人は、商店街や商業施設、こういうサービス残業に不満を持っている人が約7割、それから娯楽や自由時間、日本は今一番、自由時間社会と言われてますから、こういうところで重要なんですが、7割弱の方がそういう場が充実していないと回答。また全体の人に聞いたのがその下です、住みたい町として重要なことはなんですか、そうしますと働く場につながる企業の誘致、安心できる保健・医療・福祉の充実、買物の便利な商業環境の整備などが上位になっています。これは実数がうってあるんですけど、パーセントがありませんので申し上げますと、働く場ということで書いている人が7割強、71.6%いました。それから、安心できる保健・医療・福祉の充実、実数81と打っていますが、これ実は70%約7割なんですよ、ですから1、2はほとんど一緒です。3番目、買物の便利な商業環境の整備と答えて下さったのが、パーセントでいくと55%。それから、保育園や学校など子育て支援と答えてくれた方がパーセントでいくと40%。それから、便利で快適な交通体

系の整備というのが33.6%と、こう  
いうことが住み続けるためには重要  
だというふうに答えてくださった。こ  
ういうことも若干、頭に入れながら皆  
様方に色々これから考えてもらおうと。

その次、6ページに書いてあるのは、  
さっきは上位5位までしか書いてあ  
りませんでしたから、あなたが住み続  
ける町として重要なのはなんですか  
というのを回答116人のものを全  
部件数とパーセントで表示をしてい  
ます。

それから、次にもう一つ重要なこと  
は、定住促進対策ですから、若い中高  
生の人達がこの町に関心を持ってい  
ただいて住み続けてもらおうと、こう  
いうことで聞いています。これは、棒  
グラフで書いてありますが、中学生は3  
8人ですから、全体の36.5%高校生  
が66人63%と、ですから高校生か  
らの回答の方が多いですが、人数が多  
いからということになります。

その下、大人になっても福島町に住  
みたいと思っていますかと、すごく重  
要なところですね、その中で大変申しわ  
けないんですが、住みたいかについて  
住みたいと答えている人が31人、3  
0%、3割です。住みたくない（あま  
り住みたくない、住みたくない）とい  
うことが、58人、76%と書いてあ  
りますがこれ間違いです。申し訳ない  
ですが直してください。下の円グラフ  
の中にあるように、56%。ですから、  
住みたくないが4分の3となっている  
というこれも実は間違いで、住みた  
くないとなっているのが5割強です。

5割強の人達はあまり住みたくない  
というようなことを答えています。そ  
の中高生の方たちが、住みたい理由と  
住みたくない理由を答えてくれてい  
ますので、8ページを見てください。

住みたいとする理由は自分の生ま  
れたまちで愛着があるから、豊かな自  
然環境に恵まれたまちだから、親や家  
族と一緒に暮らしたいから、これらが  
上位になっています。設問では上位3  
つまで丸をつけてくれとなっています  
から、3つまでとりあえず書いたん  
ですが、一番上の生まれたまちで愛着  
があるから、住みたいとするうちのパ  
ーセントでいくと58%、また次回は  
もう少しきちんとしたものを皆さん  
方に事前にお渡しするようにします  
けれども、一応そういうことに。豊か  
な自然環境に恵まれたまちだからと  
いうのが51.6%、5割強。親や家族  
と一緒に暮らしたいからが13人  
ですが、41.9%こういうことになっ  
ております。

それから、住みたくないとする人の  
理由、これは先ほど全体で35.6%と  
58人いたわけですが、交通や買物な  
どいろいろ不便だから、自分の好きな  
仕事を選ぶことができないから、都会  
や他の町に魅力を感じるから、働く場  
所がないから、こういうことが上位に  
なっています。これも、交通や買物  
などいろいろ不便だから、件数は44  
件、76%ですね。それから、自分の  
好きな仕事を選ぶことができないか  
らというふうに書いてくれた方が2  
8件、48.3%です。都会や他の町に

魅力を感じるからと書いてくださった方が27件で46.6%です。同じように、働く場所がないからというのが27件で46.6%こういう状況と実は中高生は答えてくれた。それからもう一つ、先ほど娯楽や自由時間活動をする場所がないというようなことも、別なところで言われていたんですが、ここは聞き方がちょっと変わっています。

9ページですが、町内でよく利用する施設、場所はどこですかいくつでも丸をつけて下さいと、お願いしました。

利用する場所、圧倒的に総合体育館、これは49人で47.1%になっています。それから、横綱ビーチ23人で22.1%。それから図書室ですね、14人、13.1%。それから福祉センター13人、12.5%。それ以外のところはもう少し少ない。ちょっと私がびっくりしたのは町民プールがゼロだったというのは、私にしてはショックだったんですが、それからこの中で無回答という人が19人もいますね、この中も全部読んだわけではありませんが、読んでいると無回答の人達とかその他の人達、無回答の人はおそらく行き場がないと思うんですね。それからその他で書いてくれた人も、行く所がないというふうに書いてくれている人が多いんですね、比較的。だから、中高生の人達にとって、将来的には、住み続けるために働く場所がないとか色んな不安もありますけど、彼らの居場所をどこに作ってあげるかというようなことも重要なのかなと。

それから、10ページ目のところに、将来どのような町になることを望みますかということで書いてありますが、道路やバス路線が整い、買い物や通勤通学に便利なまち、これが59.6%もいます。それから、海や森林、河川など豊かな自然環境に包まれた、ゴミや公害のない美しいまち、それから、新しい企業もあって働く場があるまち、これが実は2番目のところと8番目のところですが39.4%。それから、子どもや高齢者などみんなが安心して暮らせる健康・福祉の町、これが32.7%これ以上細かくやっているとまた時間が無くなりますので。一応そういう傾向にあります。

もう一つ、まちづくりへの参加等への関心度、皆さん方と同じようにまちづくりに一役買ってみよう、あるいは意見をぶつけてくださる、という気持ちを持ってくださっている人たちが何人か。まちづくりに参加して意見を出したり、活動したりする関心は。関心があると答えてくれた子が33%、あまり関心がない・関心がないと答えてくれた方が66%と実はなっているんですが、単純にそれだけで読んでしまうと、関心を持っている子が33%、数字でいうと32人なんですね。これ実は大変なことなんですね。これだけの中高生が関心を持ってきている。是非この人達はまちづくりの中に参加してもらわないといけない。自分達のまちを定住促進も含めて、ここから出て行かないようにする。それから、もう一つあまり関心がないという



のは実は私から見ると、ちょっとしたきっかけで関心を持ってくれる人達なんですね。関心がない人はまったくないというところにつけますから、やっぱり自分の町だから気になるよと、こういう子達を出来れば色々な形でこのまちづくりといえますか、定住促進だったり、少子化対策これはまちづくりの一環ですから、そういうところには是非出てきて欲しい。そういう機会を作っていくということなんですね。

それから次、12ページは福島会、このまちを離れた人はこの町をどういうふうに思っているのか、これは少し細かく書いてあります。解答者は男性が56%、女性が44%でした、年齢からいくと一番多いのは60歳代の方が45%、こういう状況になっています。

60歳以上が約半数と書いてありますが5割弱ですね、すみません間違いでした。

それからこのまちを離れて、北海道の他の地域、あるいは本島の方へ行かれた方、何年くらいになりますかと。

今回アンケートで答えてくれた人は30年以上もう町を離れている人が78%います、25年~30年が11%ですから、9割の人達は25年以上この町を離れているという方たちです。ですから、ちょうど経済の成長期に離れて行った方達ですね。

13ページのところにいくと、この人たちに福島町についてなにか意見を言ってもらおうと思っていますから、それじゃあこの福島町のことを、

どのくらい現状を知っているかということも重要なんで、ホームページをどのくらい見てくれているのかなと、そうしたら時々見ているよという人が44%、定期的に見ているよという人が9%。いずれにしても、半数以上の人がホームページを見て何らかの情報を得ている。これは一つ重要なことですね。

それから、もう一つその下です、あなたやご家族は福島町に來訪することがあるかと聞いてます。そうしますと、毎年来るといふ人が4割を超えています42%、それから2~3年に一度來るといふ人が22%、こういうふうになっています。ですから、当然回答者、毎年来るといふ人が4割以上いますし、この2~3年に1回といふ人を加えると、64%になりますから、おおよそ現状の福島町のことも知っている人たちが答えてくれている、こういうことになります。クロス表がないから今のところは、と思われる、という事で、次回は是非クロス表もご用意しますが、じゃあそういう人たちが、現在の福島町についてどう思っているのか、14ページです。

住みよいというふうに答えた人が、29%、住みよいとどちらかといえば住みよいというのが29%。住みにくいというふうに答えた人が38%、このどちらかといえば住みにくいという人が38%、住みよいと言っている人が29%ですから先ほどの数値から言っても、ここに来てくださっている人は回答してくれているんだろう。

これも推測です、今のところ。分からないと答えた人は、ここに数年間来ていないからよく分からない、こういうふうに答えてくれているんだと。そうすると、そういう前提で今後クロスして見て行かなきゃいけません、いずれにしても外からたびたび帰って来る人から見ると、住みよいなと思う人は3割なんです。若干住みにくいなと思っている人達が、4割弱いるというふうに思っただけでいい。15ページのところは、福島町に若者や子育て世帯が住み続け活力を持ち続けるために、重要なことは何だと思えますか。24番まであって、それに重要、どちらかと言えば重要である、あるいはどちらとも言えない、あまり重要でない、重要でない、こういうふうに答えていただきました。重要なことと思うもので、上位は働く場につながる企業の誘致じゃないですかと、2番目に安心できる保険・医療・福祉の充実じゃないですか、3番目に便利で快適な交通体系の整備ではありませんかと、4番目に漁業や漁業関連産業の一層の活性化と振興、5番目に買い物の便利な商業環境の整備、ですからこれは町民アンケートの結果ということですね。それから、中学生高校生のアンケートの結果とだいぶ似通っている同じような回答です。

それから、最後16ページです。外の人たちが、福島町が将来どのようなまちであってほしいかということで、そうすると一番多かったのが水産業や水産加工の町として、活力があふれ

る町であると、2番目に海岸、森林、河川など自然環境が豊かで故郷の風景が美しい町。3番目に、子どもやお年寄り皆が安心して暮らせる健康福祉の町。4番目、イカや昆布などの地域ブランドが有名なまち。こういう状況になってきているということで、最後にこのフォーラムに参加して下さっている方達、前回調査表を出していただいた方達が、それじゃあまちのホームページをどのくらい見えていますかというのが下の表です。出来ればお願いしたいなと思うのは、皆様方がこのフォーラムに参加してもしなくても、これからこのまちをよくしていくというためには、まちが何をしているのかな、どんなことを考えているのかなと、さきほど課長さんからこんなことを来年考えているよというお話がありましたけれども、ということはだいたい、ホームページで、あるいは広報でお知らせとして載るわけですね、ですから常にそういうものを気にしていただいていると、ここで私だったらこういうふうにするのに、こんなふうに思うよという意見が出てくる可能性があります。ですから、ここで私からお願いしておきたいことは、できれば一ヶ月に一回くらい町のホームページを皆さんが見ていただくと、ありがたいなとこういうふうに思っています。以上がアンケートの結果と前回やったことの説明です。

そこで、次の作業が終わったら休憩に入りますから、お願いしたいんですが、さて、今日来た人も私の意見とい

うところは書いていただいているということですのでいいですね、書き終わりましたでしょうか。

前回来た人は、時計周りで自分の意見の下にチームの人の名前を書いてくれとこう言ったんですね。今日初めて来た人、申し訳ないのですが私の意見の下に縦長の枠があいていますね。そこにチームメイトの名前を書き入れて下さい。

では、やることを申しあげます。この裏表ありますが、まず皆さん方は若者定住促進として重要なことという方を見て下さい。そうしたら、前は右周りで書いていただいたんですけど、今回はバラバラに座っていますので、順番どおり上から並んでいます。そこで、お願いごとがあります、私の意見の下に書いてある人、自分の名前の下に書いてある人に、自分の紙を渡して下さい。そうしたら、上の人の意見が私の意見の中に書いてありますよね。その意見を読んで私はこう思うというのを、その人の意見に対して私はこう思うというのを書いて下さい。その時に、もし私がアンケートの概要を説明したことで、ちらっと頭の中に入ったことがあったりすればそれを入れてもいいですが、なければ純粹に前の方が書いてくれた事を読んで、私はこの人の意見に対してこう思うと、自分はそのとおりだと思うのか、その事について私はこう思うよとかできるだけ具体的に短くて結構ですから書き込んで下さい。はい、始

めてください。

( 各班意見交換 )

自分の意見を、とりあえず私の意見を一通り読んで、自分の欄に書きましたよね。では、リーダーの方をお願いします。何をやっているかということ、6人書けるようになっていきますから全員の意見が一枚の紙に書きこまれる事になります。今度は大変ですよ、二人分読んで自分の意見を書かなきゃならない。さらに4回目になると上の3人の意見を読んで自分の意見を書かなきゃならない。一番最後は、5人のところは4人の意見を読んで、自分の意見を書く。リーダーの人は申し訳ありませんが、自分のチームの進み具合を見てその作業を進めてください。一番ポイントになるのは、一番最初の、私の意見と書いてあるところ、次はその二人の意見を読んで自分がどう思うか、次は3人分読んで自分は どう思うか、書き回して下さい。

( 各班意見交換 )

ほぼ書き終わりましたでしょうか。まだのところはありますか？なければ、今度後ろの少子化なんです、短くて申し訳ないのですが、ここで5分間休憩をとります。

( 5分間休憩 )

次の作業に入ってください。今度は

少子化対策ですね、先ほどと同じように、チームの中で書き回しをして下さい。

( 各班意見交換 )

両方書き終わるまでは結構大変ですよ、これは皆さん方に非常に大変なことをやってもらっているんです。これはどういうときに使う手法か前回も若干説明しましたけれども、プレーンライティング法といいまして、異業種交流、日本の企業が世界へ出て、あるいは自分達の商材をどう売っていくかというときに、異業種交流になります。われわれコンサルも民間企業に呼ばれて行きます。異業種交流ですから、製造会社もあれば流通会社もあれば、主に販売する会社もある色々な加工業、色々な方達が集まってきます。業種も自動車産業であったりあるいは通信産業もある、でも一つのチームを作って何かを売り出す為に、実は民間企業の中堅の人にやってもらうときは1泊2日でやるんですね、今みたいに。実は皆さん方には大変忙しい中、この時間の中で書いてもらっているわけですから、大変なことをやってもらっています。でもこれを書き終わったときに、たぶんこの先やるのが皆さん方にとっては今一生懸命頭の中で書いてもらった、プレーン、頭の中で考える、ライティングですから書き上げる、それを人に読んでもらって、人の意見を読んで、また自分の意見を書く、大変なことなんですね。

でもこれを回す事によってチームの人が何を考えどんなことをやっているか、自分はどう考えているかということを手にも伝える。これはある意味では情報交流のような制度です。同じ土俵に乗って、さらに自分たちの思っていることを上に進めていくという作業をしてもらいます。ですから、今日まだ書き始めてもらってから時間は45分くらいしか経っていない中で、企業の人達にやると6時間分を一挙にやってもらっているわけですから、非常に大変なことをやってもらっています。

次に、今度やっていただくのは記録係(進行係)に前回指名された方、各チームどなたでしょうか、いらっしゃいますよね、二人いるところはじゃんけんしてまたどっちか一人にして下さい。

それではこれから、記録係(進行係)の人が大変です、リーダーの人の技量にかかります。リーダーの人も大変、記録係の人も大変、他の人も自分の思っていることを自分で挙げていただきますが、これからメモ用紙を配っていただきます。A4の用紙が何も書いていない用紙を配りますので、記録係の人が持ってください。今書いているところは書きながら聞いてください。今度は何をやるかと言うと、皆さん自分の紙が自分の手元に戻って来ましたよね。そうすると、自分の意見に対してグループメイトが何かを書いてくれています。今度はその読みながら、私はこう思ったから、こう書いた

ということを、自分の意見と下の意見を読んで、今度は自由に、リーダーの人に申し訳ないですけども、全員の意見が出るように意見をまわしていただきます。リーダーから私はこういうふうに書いたら、皆がこう書いてくれたけど、私はこうだからこう書いたと。あるいはこう書いたけど、こういうふうに書いてくれている、やっぱりそうねと。それで記録係の人はその中でこのことはチームの5人なら5人、6人なら6人が同じようなことを言っているというのがあればメモしてください。これは項目出しなんですけどね、なるべく多く書き出しといた方がいいです。皆がそう思うということは一つや二つじゃないと思いますから。

これから、進行が遅れていて申しわけないんですけど、だいたい20分くらい自由に、自分の意見を仲間に伝えて、皆の意見が合ってきたところは、メモ出しして、どうしても合わない一人の意見だということもいいです。その時、当たり前のことですけども、私はこう書いたというのは、普通は今皆さん方は私の意見というのは、こういうことをしたらいいんじゃないのということを書いているんです。これだいたい目標ですよ。こうしたらいいと思いますよ、始めから課題。ここに問題があると書いた人は、それは課題ですから、今度はそれを目標に変えなきゃいけないんですけど、いずれにしてもなぜそういうふうに私は書いたかというのを皆に伝えて欲しい。今回は

とりあえず、なぜ書いたという所まで、バラバラでいいですよ、まとめる必要はありません、これは重要だと思ったところをバラバラでいいですから話ながらメモに書いていくと。

とりあえずやってみてください。また何かあれば、やり方が分からなければ聞いてください。

紙を何枚かあげていますが、1枚の紙に二つのことを書くんじゃなくて、若者定住について、少子化対策について、裏表でもいいですし、足りなければ何枚使っていただいても結構ですが、二つの案件が一つの中に書き込まれないように、これだけ注意して下さい。

( 各班作業 )

そろそろ両方の議題について一応メモを書き出したというチーム。それでは、書きだしたところのチームの記録係りの人をお願いします。そのメモ用紙を出していただくんですが、その時にどのチームのか分からなくなるといけませんから、何グループとだけ右下に書いていただくようお願いいたします。グループの名前まで書き終えたところから事務局に渡してください。

それから、もうひとつ記録係の人、事務局にメモを渡したグループの人は、私の意見と書いた紙をまとめていただいて私の方に渡してください。

今、メモをコピーしてもらっているのでコピーが終わったら、自分のグル

ープの分の記録係りの人が書いてくれたものをお戻しします。

今回は、まとめに入りますから、もう少し楽ですからね。今度は皆さんが自由にお話していただいて、しゃべりながらまとめあげていただければいいんですが、実は若干宿題があります。メモ用紙が自分の所に戻ってきますから、私もメモ用紙を見ていませんから皆さんがどういうふうに書いてくれたか分かっていないんです、たぶん定住促進だったら何をするのかということを書いてくれているんだと思うんですよ。あるいは、どうして、なぜというところをやってくれているのかもしれない。いずれにしても、これはマーケティングの手法ですから、直接町おこしの中にいきなり当てはまりませんが、メモを見るとたぶん何をするか、定住促進のためにこうしたらいいよとか、ああしたらいいよとか書いてあると思うんですよ。あるいはそうじゃなくて、こんなことをやらなきゃいけないよということを書いているんだと思うんですよ。

そうすると、今度はそのことを順番はどうでもいいんですが、どこら辺で何をやるのか、ただ雇用の場を作ってもこの町の中の山奥でやるわけにはいかないし、海の上でやるわけにはいかない。おおよそこの辺をイメージするとたぶん何か出てくると思うんですよ、それぞれが。気が付いた事でもいいんですよ、いきなり答えを出すわけじゃないですから、どこでやるんですかということイメージしてほしい。

例えば教育なんていうのは少子化対策で、一番重要なのは町の安心安全ですよ。安心な所に住みたいし、安心なことって何かというと、働く場だったりとかこういうことが出てきます。あるいは介護してくれる、高齢者福祉がきちんといっている、これも安心に繋がります。あるいは人によっては、子どもを育てていく、あるいはこれから自分が定住して年寄りになった時に、防災が非常に心配なんだと、これは安全というところになります。そういうことを、何をイメージしても結構ですけども、たぶん何をすると書いていると思うので。あるいは、どうしてやろうとしているかにもよりますが、どのように仕組んだらいいのか、あるいは誰がやったらいいのかと、全部それは町に任せようなのか、これは高校生にやってもらったらうまくいくかもしれない、あるいは自分達がやったらうまくいくかもしれない、一緒にやったらうまくいくかもしれない、そういうことです。

それからコストというのはいきなりお金じゃないんですが、皆にお金を出すわけにはいきませんから、こういうのを考えていくと。お金がかかりそうだろうなというのを、これは紙に書き出さなくてもいいですから、とりあえず、イメージしといてもらえればいいなと。交通が不便だと、じゃあどうするの、鉄道を敷いてくれと言ったって、やりましょうと言えばお金が当然かかる。じゃあ鉄道を作るにもそう簡単にはいかないなと思ったときにそ

れに変わる手段、コストのかけ方がなんかありそうだなということも含めて、あるいはそうじゃなくて、もっと細かくいっていいです。

先ほど課長さんの方からお話もありましたけれど、子育て支援で出産祝い金ですか、これを出すと。そういう個別具体的な現象名を、誰が、何処で、生まれた人達に、子どもにきちんと環境を整えて、どうして、お金を出すんだよと。どの順番で何を考えてもいいですが、こういうことが通常5W1Hと言うんですけれども、5つの行動と一つのコスト。こういうことも頭に入れながらメモ用紙を見ながら、自分だったらこんなことを考えられるよというのをメモできたら、しといていただくと次回が楽だと。例えば少子化対策、皆さん方のアンケートなんかにも出てきてたんですが、認定こども園こういうものがあれば、保育園と幼稚園が一緒だから、非常にやりやすいと。働いてないお母さんでも子どもを預けられるとか色んなことがあります。そういう個別具体的なことでもいいですし、あるいはもっと大きなテーマでもいい。たぶん今書いてもらっているのは大きなテーマです。今度は個別具体的なもの。どうして、じゃあどのようにやる、何がいいですか、遊ぶ場がないと言った時にも色んなやり方がありますよね、自分達で作ろう。あるいは高校生の皆さんとやっている、ファーストフードの店がほしい、あるいはドラッグストアがほしいこういう意見が多かった。じゃあファ-

ストフードの店をどうするのという話になりますよね。マックに出てきてください、ケンタッキーに出てきてください、でもあそこに行ったら人口は少ないし、商売にならないから行かないよと言われるかもしれないですよ。そうしたら、皆さん方だったら、もしかしたら手段があるかもしれない。それは何でもいいです、思いつきでいいですから、メモに工夫してこういうことを頭に描きながら、メモを見ながら考えておいて下さい。

それで、やらなきゃいけないことというのはどういうことかということ、何かをしなければいけない、そのためにはどこかに問題点があるはずですよ、ではその問題点、課題をどうやってクリアしていくのかというようなところまで思い付いて提案してくれると、今度それを皆さん方でこれはこうだよねと、次回やるときには1枚の模造紙に各グループごと、これはKJ方でやりますから、メモ用紙も渡しますけど、そこで整理をしてもらって、次回はこのチームでやってもらいます。次回お願いすることは、リーダーの方と進行係の人とそれ以外の人、それぞれ全員が役割を持ってもらうような形で進みますので、忙しいところ大変でしょうけれど、是非次回都合をつけてこのまちを良くするんだという皆さんの意気込みで参加していただければいいかと思っています。

#### ○事務局

皆さん長時間検討いただきありがとうございました。今日の予定はこれ

で終了となります。次回3回目の日程  
なんですけれども、一応11月の下旬  
にできれば行きます。もし出来なけれ  
ば12月頭とかに延びるかもしれま  
せんので、またおいおい、決まり次第  
こちらから連絡したいと思います。

本日の日程は、これで終了したいと  
思います。長い時間お疲れさまでした。